

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2024秋 No.123



茶の湯の楽しみを伝える

七夕の頃。小学校の子供会活動に参加させていただき、伝統の菓子木型を使って三盆糖の打ち菓子を作る体験とお抹茶を自分で点てていただく体験を女木島で開催しました。打ち菓子の体験は、豆花さんと香川大学のKAGAWA Makerの皆さん。お抹茶の体験は財団の有志にご協力いただきました。いつかお茶にも興味を持ってもらえたらと願いつつ嵐のようなひとときを楽しみました。

- 茶室 de 若人茶会 高松工芸高校茶華道部
- 第10回 あ・うんの数寄講座
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習(前半)
- 9月から11月までの茶華道情報/財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL(087)826-3355 FAX(087)826-2212
2024年秋号 No.123 9月1日発行(季刊)



器、茶碗を下げるタイミング、そして水屋の人達がお茶を点てるタイミングやサポート、亭主の応答等、全員のおもてなしの心に対しての拍手だと思いました。又これらを稽古、練習した甲斐がありました。計画当初は部長として、皆をどうまとめたいけるか不安でした。開催まで期末テスト後は一カ月しかなく稽古に励みました。時には帰路が暗くなる時もありました。夏休みに入っては一日中練習することもありました。お席には浴衣を着ることを希望しましたから、浴衣の着付けも練習しました。なんとか着られるようになり席中で浴衣姿を見ていただけました。各自がするべきことを心得て茶会に向けて頑張って行きました。先生は一生懸命稽古をつけてくださり、又何時までも付き合ってください、着付けも教えてください、ありがとうございます。感謝の気持ちで一杯です。

他の部員たちの今回の茶会を通しての感想を紹介します。

「初めての茶会で緊張しましたが、楽しく終えることができて良かったです。大勢のお客様に来ていただき、お褒めの言葉を貰い、時にはつらいこともありましたが、稽古に励んできてやり遂げた思いがして良かったです。」

「お正客様が、お点前を褒めてくださり嬉しくなり、上がっていた気持ちが落ち着きました。それから落ち着いてお点前が出来ました。」

「一人一人が精一杯のおもてなしをして全員で作り上げたお茶会は、準備も練習も簡単では有りませんでした。でも続けてきて良かったと思えました。これからも続けて行こうと思います。」

茶会を開催するまで厳しい道のりでしたが、この茶会を通して、皆で力を合わせて目標を達成する為の結束力や困難に立ち向くときには思いやりの心が、成し遂げる意思の強さとなる事を知りました。柔軟な物事の考え方を学び、その場に適應する力を培うことが出来た貴重な経験でした。

お茶会開催に向け尽力して



くださった皆様、緊張する私たちを温かく見守ってくださいましたお客様、誠にありがとうございました。

高松工芸高等学校茶華道部は今回の茶会で培った精神力と忍耐力で誠実に茶道と向き合っており、これからも皆様に喜んでいただける様な茶会を開催していくつもりです。高松工芸高等学校茶華道部が茶会を開く際には是非ともお越しください。お待ちしております。

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第1回 7月28日(日)

「江戸時代の和物茶碗
— 知られざるその魅力 —」

講師
梶山博史

(大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理)

茶の湯の世界における「茶碗」というと、唐物では曜変天目、高麗茶碗だと井戸が有名だ。今年度の夏期講習初回では、責任編集・梶山博史『茶の湯の茶碗 第四巻 和物茶碗Ⅱ』の解説が根底にあるため、内容が気になる方には購入を推奨したい。

松平定信や葛飾北斎などが活躍する江戸時代の和物茶碗、その知られざる魅力には純粋な名品や格式とはまた違った楽しみ方が存在する。この時代における陶工は、現代でいうところのアーティストではない。殿様や商人のような注文主がいて、市場での流行に乗ることで、流通させて産業として成り立たせる必要があった。

やきものは「美術工芸品」であり「産業製品」でもあることから、顧客の需要を満たすために江戸時代の流行が色濃く反映していた。

特に人気を博していたのが江戸時代前期の茶の湯をリードした、近江小室藩主であり、畿内の司法・行政長官である伏見奉行も務めた、大名茶人の小堀遠州が好んだ茶碗である。この「遠州好」茶碗の写しが多く作られた。

例えば島根では、楽山焼の窯場に鎌倉権平が萩の方から来て制作した、伊羅保の型身代わりの茶碗がある。半分ずつ違う色の釉薬(うぐいす)がかけていて、白い土を刷毛で一拭きするのが特徴だ。高台の形がより洗練されたこの写しは、17世紀に作られた。箱に天和三年と倉崎権平と記入されていることから分かる。

箱書きは作られた年代を知る縁(よすが)になる。箱と中身が入れ替わることもあるが、この茶碗に関しては信憑性が高いのだとか。

『茶の湯の茶碗 第四巻 和物茶碗Ⅱ』に紹介されているものの、あまり紹介されることがない、知られざる茶碗の一つである。

本書では、江戸時代の和物茶碗を語る上で外せない茶碗を可能な限り紹介している。一方で、同じ時代の各地でつくられた、従来の書籍や展覧会ではあまり採り上げられていない窯や陶工による茶碗を収録しているのが特徴である。

遠州好と高麗茶碗は他に、京都では朝日焼の窯場で作られた釘彫伊羅保と玄悦、大阪だと高原焼の窯場で作られた呉器写など、17世紀の中頃から後半に高麗写茶碗は全国的につくられていた。

輸入で朝鮮半島から入ってくる数は限られており、対馬の宗氏が日本の大名家の注文を集めて釜山の倭館まで出張していたのみである。それを入手できない人は日本国内の茶碗を求めたという背景があり、各地で高麗写がつくられたことが分かっている。

香川県でも丸亀市で京極家が所蔵していたという「色絵の茶壺」で知られている、京都の陶工である野々村仁清も、高麗茶碗の写しを多くつくっているのが窯跡の破片などからも判明している。

高麗茶碗の特徴は、特に古手のものになると高台の中まで釉薬がかかっている。17世紀になって御本になると葉がかからないものも出てくるが、基本的には中までかかっている。「目跡」と呼ばれる重ねて焼いた時の、道具が挟まっていた跡がついている。仁清もそこを模倣して高麗茶碗としての約束事から漏れない跡をつけている。茶碗の割高台にヘラ目をつけるなど、条件を守って作っていた。

仁清の作品の一つに、土筆と杉葉を描いてあり、遠州好の前押せ部分の中心と錆絵が少しずれている茶碗がある。これも高台の中まで釉薬を入れて目跡を残している、高麗茶碗の要素を取り入れている。



る。

この茶碗を保管する箱書きとして「仁清」と「御室焼」の文字が記されているのだが、野々村仁清という個人が全てを制作したのではなく、ロクロ回しや窯焼といった分業制で製作したことに注意していただきたい。

御室とは仁和寺のことを指しており、複数人が工房で制作した当時の状況を示している書き方なのだという。しかし「御室焼」だけでは誰が制作したのかが判りづらいこともあり、二つの言葉が揃ってようやく背景が想像できる。野々村仁清本人はロクロ回しが得意な陶工であり、窯全体で工場長を担っていた人物なのだ。

仁清というと、「色絵鱗文茶碗」のような華やかな絵付けの茶碗を制作している、姫宗和のようないかにもな公家好みの茶碗を作っているような印象を持たれている。しかし制作した茶碗が、決して全部が公家好みというわけではなく、む

しる京都の雅な雰囲気、憧れた武士に向けても流通させていた。

その仕掛け人こそが、遠州没後の京都を中心に活躍した茶人・金森宗和である。その後、仁清の茶碗は仁清写と、陶工自身によって箱書きされた写しが長崎の志賀焼や高知の尾戸焼で見られるようになる。

仁清写の茶碗自体が高麗写茶碗に絵付をしたものという、広義的に扱われているのだが、江戸時代後期には秋草文や吉祥文という絵柄としての流行の変化が窺える。

総括として、冒頭に述べた江戸時代の和物茶碗というのは、注文主が主体となって流行が形成されたと言えるだろう。

藩窯・御用窯・御庭窯というように、藩や大名に公家が陶工に制作させた背景を持っていて、主導者である大名の好みも反映されやすい。それによってさらに多様性に富んだやきものが窯ごとにつくられることが魅力である。

陶磁器の研究は、やきものそれ自体や関連する資料に向き合い、そこから導き出せる情報を元に仮説が組み立てられる。

いつ、どこで、誰がつくらせ、どのような技術を用いたのか。必要がなくなつた茶碗は一つもなく、誰がどのような思想を持っていたのかなど、全てに意味があり、現代にまで伝わっている。

そうした異なる時代を生きた人々の繋

がりやを辿っていくことで、従来とは違った視点で新たな評価が可能となるのだ。

(中條嵩斗)

第2回 8月3日(土)

「地域と茶の湯」

講師 藤丸 正明
(株式会社 地域活性化局代表取締役)

福岡の老舗和菓子店に生まれ育った歴史好きの青年がいた。彼は明治維新の立役者大久保利通に憧れ、古代の史跡の都・奈良に行くことを決心し大学へ進学した。その青年が今日の講師・藤丸正明氏です。

大学三年の時、奈良町を活性化させるため、その拠点となる(株)地域活性化局を起業した。目指したのは観光を軸とした地域経済の発展。その方法として「生産地育成」「消費地振興」「奈良町の情報発信のための広告広報・観光案内と企画・物販」「施設運営」などに取り組む。

では、なぜ茶の湯で町起こしなのか。奈良観光の特徴は、春の観光シーズンと秋の正倉院展をメインとした観光などでは賑わっているが、冬場はオフシーズンの現状。これを解消するには?と考へ、思いついたのが茶の湯。お茶は、秋から冬にかけてがシーズンなので閑散期の集客対策が取れる。訪れる方々には、地元のお菓子でお茶を楽しんでいただ

き、おいしいと思ってくださいれば、お土産として買っていただける可能性も出てくる。旅行会社と提携して、団体客に来ていただければ、少人数に分けて地域の何軒かの旅館に受け入れていただく協力体制もとれる。地域活性の可能性は広がる。また、茶会関係者は前泊して準備して当日、茶会場へ行く、つまり、この点からも宿泊者の増加が望める。そしてもう一点大切なことは、席料を高額に設定すること。なぜなら、県外の茶会は高額でも行こうと思う愛好家がいらっしゃるから。

幸いにも、奈良には歴史ある神社仏閣がたくさん有り、高僧の方々のご協力をいただければ流派を問わない大茶会は必ず成功すると考え、思い切って京都仏教協合理事長の有馬頼底様下にご協力をお願いしたところ「おもしろそうやなあ」と賛同していただき、二年をかけて動いた。しかし、膨大な資金が必要なため、地域活性化局単独での開催を断念し、「奈良の閑散期に高所得者を呼ぶ大茶会事業」として奈良市に五年間の事業計画を提案し、予算を付けていただいた。つまり、行政との協働が実現したのです。もちろん、お茶会では、お菓子・料理・道具など地域の物でもてなすこととした。その結果、刺激を受けて宿泊・飲食業界共に劇的に向上し、地域活性にも大いに貢献できたのです。

では、将来的に茶道界はどうして行けばより良くなるのでしょうか?

第一に地域の茶道拠点をつくること、つまり、全国各地に拠点ができれば協力して様々なイベントができる可能性が出てくるし、行政との協働もやりやすくなる。

第二に男性の茶道人を増やしていくこと。なぜなら、歴史上の茶人には高名な男性が多くいらっしゃるから。

第三に茶道界のすそ野を広げること。一例として地域活性化局では親子茶道教室を実施している。その結果、現在では七十名ほどが参加している。

最後に強調されたこと。

「茶道を教えている方々は、ぜひぜひ確定申告をしていただきたい。こうすることにより、茶道にかかわる人数を行政がはっきりと把握できるから」と強くお勧めしていた。

茶道界の活性化を心から望んでいらっしゃる熱意が伝わってくるご講演でした。
(千葉規美子)



茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

- 9/8 表千家流四季茶会 席主：谷本宗由
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00
- 9/22 香川県茶道協会秋季茶会 席主：安藤久雄
玉藻公園披雲閣 2,000円 9:00～15:00

琴平月釜茶道会 TEL 090-3460-9195

- 10/10 金比羅例大祭茶会 席主：裏千家琴平
アクトことひら 200円 10:00～15:00
- 11/17 琴平町文化祭茶会 席主：煎茶・静風流 金丸洋子
アクトことひら 200円 10:00～15:00
- 12/7、8 琴平町歳末チャリティ茶会
席主：琴平官休会(田中、山下、竹井)
総合センター1F大広間
300円 10:00～15:30(8日は15:00まで)

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL 0877-24-3315

- 9/8 月釜(多度津分会) 席主：石川宗雅
多度津地域交流センター2F 600円 9:30～15:00
- 9/8 月釜 席主：香州会
樟蔭軒 600円 9:00～13:20
- 10/6 茶筌供養 席主：善通寺教授者
総本山善通寺 600円 10:00～14:00
- 10/10 金刀比羅宮例大祭 席主：田中宗武
アクト琴平 200円 9:00～15:00
- 10/13 短詩文芸会協賛観月茶会 席主：多度津分会
多度津地域交流センター2F 500円 14:30～19:00
- 10/20 月釜 席主：松本宗智
翠松閣 600円 10:00～14:00
- 11/3 文化の茶会 席主：秦 宗孝
翠松閣 600円 10:00～13:00
- 11/3 文化の茶会 席主：丸亀分会
丸亀市生涯学習センター 600円 9:30～15:00
- 11/3 あやうたふるさと祭り茶会 席主：綾歌教授者
アレックス 300円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

- 〈高松支部月釜〉 大西・アオイ記念館
800円 9:30～15:00(時間指定)
- 9/1 席主：前川宗奈
10/6 席主：高松青年部
11/3 席主：岡 宗久
12/1 席主：長尾宗里

石州流讃岐清水派石州会 TEL 090-2826-9229

- 9/22 第二回秋季茶会(主催：香川県茶道協会)
禎の間 席主：石州流讃岐清水派石州会
蘇鉄の間 席主：表千家同門会 香川県支部
玉藻公園披雲閣 2,000円 9:00～15:00
- 10/27 流祖宗関公352年祭記念茶会
席主：金澤宗保、木村宗栄、間嶋宗美
玉藻公園披雲閣 1,000円 9:00～15:00

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

- 〈香川官休会月釜〉 御坊町無量寿院 1,000円 9:00～15:00
- 9/1 席主：在松会
11/3 席主：多田よう子社中

東讃茶道懇話会 TEL (087) 898-0391

- 11/24 月釜 席主：鈴木浩子(裏千家)
池戸西徳寺 800円 9:00～15:30

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

- 9/16 2024年度文化講演会「善五郎家のしごと」
席主：18代永樂善五郎(千家十職の土風炉・焼物師)
サンメッセ香川2F大会議室 1,500円 12:30～13:50
- 9/16 2024年度記念茶会 席主：裏千家淡交会高松支部
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:05
- 12/15 大西・アオイ花茶会 席主：茶道石州流琴松会
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

- 〈由佐城月釜茶会〉 第2研修室(和室)
前売券700円・当日券800円 9:30～14:30
- 9/15 席主：川原宗津(裏千家)
10/20 席主：小比賀宗茂(茶道石州流宗家高松会綾野宗悦社中)
11/17 席主：安田宗輝(裏千家 川原宗津社中)

財団賞と助成金について

茶の湯の交流拠点として貸し茶室の運営をしている弊財団ですが、財団の活動はそれだけではありません。財団の設立当初から郷土香川県の文化の発展を願って「財団賞」と「助成金」の交付事業と言うのがあります。

● 財団賞(2件 各20万円)

長年、郷土の文化発展のために人知れず努力されて来た方や伝統文化の発展のために努力されている方を探して、表彰させていただいています。もし、そういう方をご存知でしたら財団の事務局までご一報下さい。推薦の締め切りは6月末日です。

● 助成金(3件 各30万円)

ジャンルを特定することなく香川の地で、新しく文化の創造にチャレンジする方を応援して行きたいと言う趣旨で交付する

のが助成金です。活動のスタートアップを後押しするために、継続的に助成を受けられる仕組みもあります。こちらは毎年1月末日が申請の期限です。

● 交付の決定

審議委員会で審査され、最終的に理事会で決定されます。公平性を守るために、事前の相談とかはしませんが、申請書類で意味のわからないことは質問させていただく場合もあります。

● 本事業の未来

近年コロナ禍の影響もあって、文化的な活動の新しい動きは減っています。助成金のニーズはあると思いますが、何か新たな文化事業を始めたいと思われる方は、ホームページから申請書をダウンロードして申請して下さい。楽しみにお待ちしております。

4年に一度のお楽しみ

パリオリンピックも終わってしまいました。日本人選手の活躍に一喜一憂した方もたくさんいらっしゃったと思います。今回は香川や岡山の選手が頑張ってくれましたね。

何かオリンピック関係のお菓子をと探しても大人の事情で五輪マークをつけたお菓子は見つかりませんでした。そんな中、食べながら応援したくなるようなお菓子を見つけました。丸亀のエリート洋菓子店のマドレーヌ。プレーン味とココア味の可愛いくまさんマドレーヌが柔道とバスケ、陸上選手のユニフォームを着ています。パッケージですが日の丸入りのユニフォームを着るので気分はアゲアゲです。これが手元にあったら応援にもさらに力が入りそうです。数量限定で定期的に発売しているそうです。

次のロスの時はお取り寄せしてはいかがでしょうか。でも力が入りすぎて握りつぶさないようにご注意ください。



お茶の風景(25)

秋しみじみ

秋の茶会には重陽の節句(九月九日)にちなんだ菓子・被綿さきわたが登場し、平安王朝絵巻を紐解くような話で席が賑わいます。

前日の宵に菊花に綿を被せ、翌朝、夜露で湿った綿で体を拭うと邪気を払うとか美肌の妙薬とあって、宮中の殿上人や姫君たちのみやびな歳時行事、清香に満ちた風習は武家社会におよび、さらに市井の中へ広まっていきました。

戦後の娯楽の少なかった時代、高松市郊外の仏生山町では町内会や商工会が中心となって仏生山大菊人形展が開催され、農家で契約栽培した小菊を枚方パークの人形師が飾り付けた、昔話の主人公や源平屋島合戦のヒーロー、舞台女優の立ち姿などが出現して人気を博していました。赤字も覚悟の素人興行、役員さんたちは作業の商売を二の次にして頑張り、それでも、雨にたたられて客足の少ない日曜日など泣きたい気持ちで空を見上げたこともあったとか。

今は昔。すっかり影を潜めた「菊薫る秋の話」です。



おいでまい香川

香川県内の様々なイベント情報を随時更新中! <https://oidemai.kagawa.jp/>



財団行事予定

(9月~11月) 休館日水曜日

お申込みは財団まで。

急遽中止になる事もあります。

9月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
9月3日(火)午前11時
- ◆ 書道教室 森本義人先生
毎月第1・第3金曜日
9月6日・20日(金)午前10時~12時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日
高橋初乃先生
9月13日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
9月14日・28日(土)午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
9月17日(火)午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)

10月

- ◆ 財団賞授賞式・助成金交付団体
認定書授与式
10月1日(火)午前10時30分~
- ◆ 書道教室 森本義人先生
10月4日・18日(金)午前10時~12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
10月11日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
10月12日・26日(土)午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室
10月15日(火)午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)
- ◆ 晴友会研修旅行
10月18日(金)~19日(土)
詳細は最終ページ参照
- ◆ 10月懸釜「再会・名残の茶会」
日時 10月27日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
濃茶 谷松屋戸田 弍玄庵 戸田貴士氏
薄茶 武者小路千家 随縁齋 千宗屋宗匠
会費 30,000円(濃茶・薄茶・点心席)
詳細は最終ページ参照

11月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
11月1日・15日(金)午前10時~12時
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
11月5日(火)午前11時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
11月8日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
11月9日・23日(土)午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室
11月19日(火)午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)

令和6年度 第32回財団賞決定

今年度の財団賞は、次の2件に決定いたしました。

水任流保存会

(高松市教育委員会教育長推薦)

1643年、高松藩初代藩主松平頼重が藩士に修練させたことから始まった「水任流泳法」の伝承普及活動を行なっている。

櫃石ももて祭保存会

(坂出市教育委員会教育長推薦)

昔から旧暦1月11日に王子神社で開催。11人の射手が弓射を行うことにより、その年の豊漁を願い、吉凶を占う歴史のある神事を継承している。

晴友会研修旅行のご案内

晴友会の研修旅行が決まりましたのでご案内致します。

今回は、表千家北山会館開館30周年記念特別展と関連行事の茶の湯文化にふれる市民講座、北村美術館四君子苑の特別見学、野村美術館の2024年秋季特別展「-多彩な抹茶の器-茶入」などを予定しております。

参加ご希望の方は、財団事務局までお申込み下さいませ。申込みの方に別途詳細をご連絡致します。

日時 令和6年10月18日(金)～19日(土)

高松駅7時発の予定(1泊2日)

会費 晴友会会員 50,000円(バス代は財団が助成)

一般の方 60,000円

定員 25名(定員に達し次第終了)

申込 9月9日(月)10時より電話にて受付開始

再会・名残の茶会

この度、令和2年コロナ禍による中止以来5年ぶりに中條文化振興財団にて掛け釜をさせていただきます。そもそも讃岐高松は武者小路千家とゆかり深く、そのご縁から平成24年より毎年縁深い方とともに茶席を持たせていただいております。今年はその7回目にあたり、令和3年に社長に就任された谷松屋戸田商店の戸田貴士さんをお誘いし、お邪魔いたします。300年以上の歴史をもつ谷松屋戸田さんは松平不昧公や平瀬露香翁、益田純翁といった歴代の数寄者の愛顧を受けた老舗茶道具商であり、歴代御当主は流儀の皆伝を受けるなど代々が深いご縁を重ねています。お父様の博会長は財団で数回釜を掛けてられますが、私にとっては弟分ともいうべき貴士さんとは初めてのコラボレーションです。

コロナ禍を経て茶の湯を取り巻く環境も大きく変化しており、茶道美術界の次世代を担う戸田さんのご趣向に私も大いに期待をよせております。また今回は茶の湯がもっとも侘びの趣を深める十月の名残の趣向で、戸田さんが濃茶、私は薄茶を財団のお茶会では初めて担当致します。ぜひ流儀を超えて茶の湯に心寄せせる多くの方々のご参会、「再会」を今から心待ちにしております。

千 宗屋

日時 令和6年10月27日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 谷松屋戸田 弋玄庵 戸田貴士氏

薄茶 武者小路千家 随縁斎 千宗屋宗匠

会費 30,000円(濃茶・薄茶・点心席)

入席時間ご案内(各席8名・2時間30分を予定)

第1席 9時 第2席 9時50分 第3席 10時40分

第4席 11時30分 第5席 12時20分 第6席 13時10分

第7席 14時 第8席 14時50分

申込 9月16日(月)10時より電話にて受付開始

編集後記

今年は何年にも増して厳しい暑さが梅雨明けから続き、熱中症対策を気かけながらの日々でした。

八月、街中に「一合まいた」が流れはじめた時は、祭りの気運が否応でも高まり、歩く速さも自然とリズムに乗っている自分に気が付き、苦笑してしまいました。

コロナウイルスの11派流行が心配される中、久しぶりに帰省し家族で打ち上げ花火や総踊りなど楽しまれたことでしょうか。高松だけでなく、県下各地でそれぞれの地域の歴史や伝統を取り込んだ祭りが行われることでしょう。老若男女が共に活躍できる行事として大切にしていきたいものです。

やはり、ふるさとはいい!!

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団 編集部

TEL (087) 826-3355

FAX (087) 826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp